

学校名（ 宍粟市立一宮北小学校 ）

実施日：10月15日（3校時）	
領 域：特別活動 学級活動	
取組名：自分らしく	
対 象：2年生	実施場所：教室
ア ねらい ・ 言われて温くなる言葉について考え、友だちと仲良くしていこうとする態度を育てる。 ・ 性別によって固定されない様々な個性があることに気づかせ、互いに認め合い、自分と異なる意見も大切にする態度を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ・ めあてを知る（アンケート結果をICTで示し、自分たちの問題として捉えさせる） ・ 女の子や男の子になったつもりで話を聞く。 ・ おじいちゃんとお母さんの言葉を聞いた女の子と男の子の気持ちを考えさせる。 ・ 性別のみで決めつけるのは誤りだと気づかせる。 ・ アンケート結果をICTで「男の子」「女の子」のくくりをシャッフルして提示する。 ・ 本時の学習をまとめ、振り返りをする。	
ウ 連携先：宍粟市人権推進課、宍粟市立一宮北中学校、宍粟市立はりま一宮小学校、家庭	
エ 連携にむけての取組 ・ 校内部会で事前に指導内容の検討をした。 ・ 宍粟市人権推進課の方に、参観後、授業における性に関する考え方について、意見をいただいた。 ・ 一宮北中学校の職員には授業公開した。 ・ はりま一宮小学校に授業の動画を視聴していただき意見交換を行った。 ・ 家庭には、授業の内容や児童の発言を学級通信で知らせた。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 ・ 9年間（小学校1年から中学校3年）を通した性の多様性の授業カリキュラムを作成するため、小中全職員で夏季研修を実施し、指導案を検討した。 ・ 学年に応じて計画的に性の多様性の授業を進めている。 ・ 授業の様子を動画で撮影し、小中職員がいつでも視聴できるようにしている。 ・ 教職員や宍粟市人権推進課の方が授業を参観し、意見交換し合っている。 ・ 各教科・各領域を通して、伝え合う活動を取り入れた授業実践を行うことを小中全職員で意思統一している。ペア学習を活用し、相手の考えや意見を受け止めてから自分の考えを伝えるように指導している。相手意識をもたせた上で、伝えたいことをまとめさせ、コミュニケーション能力を育てている。	
カ 評価の方法 ・ 授業中の発言 ・ ワークシート、感想	
キ 成果 すべての児童が、登場人物の男の子や女の子の気持ちを考えて、他の児童に一生懸命に伝えようとしていた。性別で決めつけることの不合理に気づいていた。アンケート結果にあった「男の子」「女の子」のイメージについて、終末にICTを使ってシャッフルして視覚的に示したことは非常に効果があった。	
ク 課題 全体的にスムーズに流れすぎてしまった。もっと揺さぶりをかけて深める必要があると考える。児童が授業で考えたことが学校生活の中で生かしているか、観察して繋いでいきたい。	